● お城見学会

令和５年６月８日、今年のお城見学会は、福山城と広島城へ総勢23名で行きました。

二つのお城は、奇しくも先の大戦で焼失し、戦後復興が進んだ昭和41年と昭和33年にそれぞれ鉄筋で復元されていることなどを事前に車中ビデオで予習して臨みました。

まず「福山城」は、幕府が毛利氏等の西国有力外様大名を抑える必要から、1619年（元和５）徳川秀忠の命により家康の従兄弟である水野勝成が築城に着手、３年後に工事は完成しました。城郭構造は、輪郭式平山城で天守閣は複合式層塔型５重６階。10万石大名として二重の濠と瀬戸内海へ抜ける12キロの運河を持つ海城です。最大の特徴は、天守閣の北壁が街道からの防御のため、４階まで厚さ３ミリの鉄板張りであること、これは2022年が築城400年に当たることから、市民の熱意により令和の大普請として復元された、との説明を受けました。なお、戦後、史実に基づかない天守閣の復元が全国で多数行われた反省から、国指定史跡での天守閣復元は、福山城が最後に許可されたお城であることもわかりました。

次に、昼食後に訪れたのが「広島城」です。広島城は、1589年（天正17）に毛利輝元が太田川河口のデルタ地帯に建設を着手し、1592年（文禄元）に輪郭式平城（日本三大平城の一つ）が完成。天守閣の構造は複連結式望楼型の五重５階です。関ヶ原の戦い後は福島正則、その後は浅野長晟と城主が変わり、明治維新まで浅野氏12代の居城となりました。ガイドさんによると、令和３年の市議会で市長さんは、「木造天守の復元を目指す調査、検討を進める。」と答弁しており、それを受けて、専門家による木造復元へ向けた技術的検討が進められているそうです。

なお、広島市では、木造天守復元に向けて市民団体が活動をされていますので、そのホームページを是非ご覧になっていただきたいと思います。

（塚元龍馬・京子）

福山城

● 高松城の復元活動にご賛同頂いている法人会員

(公財) 松平公益会、(宗)石清尾八幡神社、高松市茶華道協会、高松市大工町自治会、大樹生命保険㈱高松支社、香川県造園事業協同組合（玉藻公園指定管理者）、高松丸亀町商店街振興組合、高松市観光ボランティアガイド協会、(公)高松青年会議所、㈱香川経済レポート社、香川証券㈱、㈱喜代美山荘（花樹海）、ネッツトヨタ高松㈱、㈱二蝶、高松帝酸㈱、㈱香西工務店、高松商運㈱、久米加㈱、㈱森造園、㈱ネクサス、高尾石材㈱、四国興業㈱、㈱アムロン、大塚整形外科医院、清水建設㈱四国支店、㈱安藤・間四国支店、後藤設備工業㈱、㈱かねすえ、㈱オーディオサミット、(有)角田米穀店、㈱EBiSU、西日本土木㈱、日本舞踊藤間流「勘雅智枝会」、小手毬、㈱朝日段ボール、ハウス美装工業㈱、北浜alley㈱、㈱ツゲ炭酸工業　　（順不同）

【協賛団体】　高松商工会議所、高松観光コンベンションビューロー、高松玉藻ライオンズクラブ、香川経済同友会　　（順不同）

高松城の復元を進める市民の会

（事務局）〒760-0029　高松市丸亀町13番地２（高松丸亀町商店街振興組合内）

TEL：087-823-0001　　FAX：087-823-0730

ホームページ　http://www.takamatsujyo.jp/　高松城の復元　検索

高松城の復元を進める市民の会

第１２号

高松城復元かわら版

令和6年1月発行

●「秋の講演会」松平洋史子先生を迎えて!!

高松藩最後の藩主松平頼聡とその正室弥千代姫の曾孫が語る「松平家の教え」

昨年11月25日、玉藻公園披雲閣大書院に於いて、桜御門復元２周年記念行事として、「秋の講演会」を開催しました。講師は高松松平家の末裔、松平洋史子先生です。

秋の講演会は、コロナの影響でここ数年自粛していたので、久々の講演会実施で参加者が集まるかどうか心配していましたが、応募締め切り前に120席が埋まり、あっという間に満席となりました。

秋も深まる講演会当日は、天気予報では「今季一番の冷え込み」となっていましたが、天が味方してくれたのか、思ったほどの寒さにはならず、穏やかなお天気となりました。披雲閣大書院は暖房器具が使えない場所なので、スタッフ一同ホッとしました。

運営委員の逢坂貴良さんの立版古（ペーパークラフト）の姫御駕籠や松平家の人々の大型写真パネルの作品、藤間勘雅智枝理事の日舞「高松十二万石」が会場の雰囲気を盛り上げました。

次ページに続く

● 理事長　新年ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には、日頃より、本会の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。本年が幸多い年でありますよう心からご祈念申し上げます。

さて、昨年は、統一地方選挙が行われたのを契機に、６月には市議会議長に天守復元についての要望書を提出。その流れで７月には京都へ移転した文化庁に平井代議士、市議会の皆さん、それと私たち市民の会の代表が都倉俊一長官を訪問しました。その結果、文化庁の課長からは、高松城の天守復元は「他の案件よりも優先順位が高い」との発言を引き出しました。そして今年度は、高松市に対して、天守閣の復元工事をするに際して現場での問題点を精査するよう指示をしているようでありますので、その報告書次第でいよいよ「その日」が来るものと考えています。

次に、松平洋史子先生を講師にお迎えしての「秋の講演会」についてであります。講演会の開催が決まるまで、そして決まってからの諸準備は大変でしたが、役員会を何回も開催して一歩ずつ確認しながら進めました。結果、11月25日は披雲閣大書院を埋め尽くす来場者があり、内容は特集として取り上げているとおりであります。（ホームページでも掲載中）大きな事業が無事終わったことに対し、役員の皆様はじめご協力いただいた大勢の皆様に、厚く御礼申し上げる次第であります。

本年も天守閣復元の動きについては、目が離せない一年になりそうです。引き続き、会員皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたしまして、新年のご挨拶といたします。

（古川　康造）

小さな茶室「I for you 宙」に圧倒！

まず最初に聴衆を驚かせたのは、講演の前のお茶のお点前「I for you 宙（アイフォーユーそら）」の実演披露です。チラシには入れていなかったので、参加者の方にはサプライズになりました。「I for you 宙」は、松平洋史子先生が考案された立ったままお茶のお点前をする小さな茶室です。茶道は日本文化の総合芸術と言われています。武家の茶の湯の精神を小さな箱に全て納めて、世界中どこへでも持ち運ぶことができるように工夫されています。「一服の茶をもって万国の人と和をなす」ことを表した「I for you 宙」のお点前は、キリリとしたまるで武道のような所作と流れるような身のこなしが美しく、今後ますます進みゆく海外との文化交流に最も適応した茶道のお点前だと感じました。

講演「徳川260年愛される所作と心がまえ」

静寂の中のお茶のお点前の後、再び登壇された松平洋史子先生。いよいよ講演がはじまりました。お点前の時とは雰囲気が変わり、上品で優しい笑顔です。お話は５つの項目に分けられ、それぞれにまつわる和歌と共に進められました。

①　礼儀作法　　②　女の武士道　③　庭の教え
④　美しく生きる ⑤　感謝第一

「礼儀作法」では、高松藩最後の藩主松平頼聡の歌「白峰やくだるみどりの松かげに　夕日うすつくかげをみるかな」を元に、悲劇の崇徳院の物語の舞台白峰寺に詣でた曾祖父頼聡の気持ちに想いを馳せ、どんな困難に直面しても藩主としての姿勢を崩さず、武士としての礼儀作法を貫いた、と話されました。また、子どもの頃の雑巾がけや心眼でのお辞儀の仕方を教わった事など、松平家での厳しい躾についてお話してくださいました。

「女の武士道」では、井伊家に生まれ高松松平家に２度嫁いだ松平千代子の歌「万代のさかえをこめしいにしえの　ねさしをあうぐ高松のかけ」を紹介されました。江戸時代には珍しく恋愛結婚で結ばれた頼聡と弥千代姫は、幕末の動乱に巻き込まれ悲しい運命をたどります。しかし、互いに想い合う二人は明治５年に再び夫婦となりました。弥千代姫は千代姫となって高松松平家に戻り、頼聡亡き後には何度も高松を訪れ、頼聡の想いを引き継いだことは「女の武士道」だったと言えるのではないか、と話されました。また、俊子お祖母様からは「愚痴は丹田に収める」ことを学びます。丹田呼吸をして正しい姿勢を保つことで、上手に感情を自制する技を身に付けるよう教わった、とお話されました。

「庭の教え」では、お祖母様の松平俊子が昭和女子大学付属高等学校の校長に赴任した最初の始業式に俊子の母鍋島栄子（ながこ）が贈った歌「ふみまよう人こそなけれ何処にも　庭のおしえの為しある世は」は、指導者がきちんと教えれば正しい道から外れる人はいない、という意味の歌を元にお話くださいました。お祖母様から、短歌や花瓶に生ける花探しを通して、大切な時間や心の在り方を学びます。また失敗した経験からも多くの学びがあった、と話していただきました。

「美しく生きる」では、「茶の湯こそ心静めてにちにちの　立ち居振る舞い正す道なり」と、武士の嗜みとして大切にしてきた茶の湯の精神と文化を引継ぎ、これからの時代に合わせて、世界に広めていきたいとお話をされました。鍋島家から嫁いでこられたお祖母様は、高松松平家の質実剛健さと西洋の新しい文化を理解しようとした鍋島家の家風の両方を融合させた礼儀作法の教本「松平法式」を作りました。松平法式には「美しい所作を身に着けることは、美しい心を持つこと」とあり、毎日のちょっとした心掛けの積み重ねが大切であり、和の心の気付きとなります、とのお話でした。

「感謝第一」では、祖母が大事にしていた「残心」という言葉や、大正時代日本の女性を代表してアメリカを訪問したときの様子などを通して、相手の心に寄り添うこと、感謝し心を残すことが世界の平和につながる、と話されました。お祖母様は亡くなる直前まで「さぼれば錆びる」と言って、オシャレに気を遣っていた、とのことです。そして、松平洋史子先生は私たちに「来し方に学びて歩む披雲閣　新しき風に窓を開きて」の歌をプレゼントしてくれました。男性も女性も互いに睦みて和の精神を尊重する日本には、世界に誇れる精神や文化があります。いつでも自分は変えられる、今日から窓を開き新しい風を吹き入れましょう、と言われました。

～いにしえを振り返りつつ進みゆく
道はいかにと遠からんとも～

最後に先生は、私たち高松城の復元を進める市民の会に対し「高松の人が天守を再建してその誇りを取り戻そうとしていることに感銘を受けました。これまで高松城は多くの挑戦と繁栄を経験してきました。私にとって高松城の復元プロジェクトに協力することは未来への恩返しと感じています。高松城は単なる建造物ではなく、過去から現在、そして未来へと繋がる象徴です。歴史に学ぶことは未来を築くためのステップです。」と話され、「いにしえを振り返りつつ進みゆく　道はいかにと遠からんとも」と朗々と歌を詠まれ、講演を締めくくられました。

満員の聴衆、熱心に質問も

松平洋史子先生の時に優しく、時に力強く、時にユーモアを交えた巧みなお話しに参加者の皆さんは聞き入っていました。講演の後、出口でお帰りの皆さんを笑顔でお見送りされ、快く写真撮影にも応じられました。講演会終了後も、「I for you 宙」の周りに参加者の方がたくさん集まって熱心に洋史子先生に質問していました。

講演を聞いた方たちは「素晴らしいお茶のお点前も見ることができて、良い講演会でした」「またもう一度聞きたい」と口々に言っていただき、講演会は盛況のうちに終了しました。　　（桜木　直美）

松平洋史子先生プロフィール

水戸徳川家の流れを汲む讃岐国高松藩松平家の末裔、（11代高松藩主・松平頼聰（よりとし）、正室千代姫の曾孫）
祖母・松平俊子様が昭和女子大学の校長時代にまとめた松平家に代々伝わる生き方教本『松平法式』を受け継ぐ。
大日本茶道協会会長、広山流華道教授、茶懐石・宋絃流師範、（一社）日本おもてなしコンシェルジュ協会会長
主な著書に
『松平家　心の作法』『一流の男になる松平家の教え』『松平家のおかたづけ』『気品の作法』などがある。